京都 平安京の天門

天満宮

題字／後西天皇御宸筆

奉祝
天皇陛下御即位

菅公御歌
このたびは 幣もとりあへず手向山
紅葉の錦 神のまにまに

特集
◆天神さまと私 ――――――
国文学者、国際日本文化研究センター名誉教授 中西 進 さん
◆北野祭再興に向けて始動 ― 令和最初の例祭、旧暦に復して厳かに斎行
◆「伝統と現代」二つの文化が華麗に融合
KYOTO NIPPON FESTIVAL 華やかに開幕

北野天満宮社報 秋号 Vol.24
KITANO TENMANGU NEWS

日本文化の中心地 京都
その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

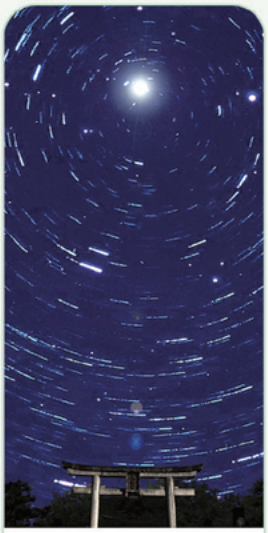
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに将軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあって、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造（やつむねづくり）と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

表紙写真　―曲水の宴 白拍子奉納―

近年、北野天満宮との御縁が明らかになった幻の芸能白拍子（しらびょうし）。藤原北家に連なる公家勘解由小路経光の日記『民経記』の寛喜元年（1229）六月一日条には、北野社で白拍子が幣をいただき奉仕していたことが記されている。
ご御神縁により、毎年春と秋の曲水の宴では、白拍子研究所による白拍子舞が奉納されている。

奉祝 天皇陛下御即位 御挨拶

かつて大嘗祭斎行に先立ち執行された荒見川祓の斎場である「史跡御土居のもみじ苑」

先ずは謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。

畏くも今上陛下におかせられましては、十月二十二日に我国の古式に則った即位礼正殿の儀及び諸儀を執り行われ、国民及び諸外国に対し御即位を高らかに宣明されました。来る十一月十四日夜半より翌十五日未明にかけ、御一代に御一度の重儀大嘗祭を斎行遊ばされる由承り、誠に慶賀の至りでありますとともに国民斉しく衷心よりお慶び申し上げる次第でございます。

扨、本号では新たな御代「令和」の元号選考委員のお一人であり、万葉集研究の第一人者でいらっしゃる国文学者の中西進氏をお迎えし親しく対談させて頂きました。（本文二頁から五頁掲載）氏が語られた時空を超えた日本人の心、我国の歴史伝統に学び、新しい世を切り拓くその本意に感動を覚えた次第でございます。

時あたかも当宮では、令和の御代を迎えた本年より、千有余年の国都「平安京」で生まれ育まれてきた天神信仰において、当宮の最も重要な祭儀として八月四日に斎行してきた例祭を、旧暦にあたる九月四日の斎行に復し、八月七日の御手洗祭から九月四日の例祭、そして十月一日から五日にかけて斎行される瑞饋祭へと続く一連神事を「北野祭（きたのさい）」と総称して、凡そ二か月間に亘り天神信仰ゆかりの神賑行事と併せて賑々しく斎行致しました。この間多くの氏子崇敬者並びに関係各位のご参列ご助力を賜りましたこと、改めて御礼申し上げる次第でございます。

今秋は、豊臣秀吉公ゆかりの行事として名高く、我国の歴史上において空前絶後の大茶会と讃えられる北野大茶湯（きたのおおちゃのゆ）所縁の献茶祭が、表千家不審菴千宗左宗匠のご奉仕のもとに執り行われます。本祭に先立つ御茶壺奉献奉告祭と併せて、当宮の由緒深いこの二つの神事を中心に、その昔、北野天満宮と大嘗祭との関わりを知る上で最も重要な儀式の一つである「荒見川祓」が行われた紙屋川（旧荒見川）沿いにもみじが美しく色づく「史跡御土居のもみじ苑」の公開。令和最初のKYOTO NIPPON FESTIVALでは、当宮所蔵国宝「北野天神縁起絵巻」に焦点をあて、新たな角度と視点から縁起絵巻を読み解く特別展を開催。さらには「曲水の宴」や上方落語の祖である露の五郎兵衛一門の「もみじ寄席」、京都連歌会による「もみじ連歌」など、種々神賑行事を執り行い、多様な文化の発信と天神信仰の発揚に努めて参る所存でございます。

愈々七年後に迫った令和九年（二〇二七）斎行の菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて、当宮の歴史伝統を重んじた旧儀復興と祭祀厳修はもとより、確かな信仰に基づいた新たな文化の融合と発信を、氏子崇敬者各位のご賛同を仰ぎながら執り進めて参る所存でございますので、何卒倍旧のご協力をお願い申し上げます。

北野天満宮
宮司　橘　重十九

国文学者、国際日本文化研究センター名誉教授 中西 進 さん

新たな元号が、日本最古の歌集である『万葉集』から採られた「令和」となって半年が経過した。今号は『万葉集』研究の第一人者である国文学者の中西進さんをお迎えし、橘重十九宮司との対談を掲載する。

（構成・編集部）

中西 進（なかにし・すすむ）氏略歴

国文学者、国際日本文化研究センター名誉教授。文学博士。一九二九年東京都生まれ。東京大学文学部卒業、同大学院修了。筑波大学教授、大阪女子大学長、京都市立芸術大学長、帝塚山学院理事長・学院長などを歴任。宮中歌会始召人。日本学士院賞受賞、文化勲章受章。京都市名誉市民。『万葉集』など古代文学の比較研究を中心に幅広く日本文化・日本文学の研究、評論活動で知られる。『万葉集全訳注』全五巻（講談社文庫）、『万葉時代の日本人』（潮ライブラリー）、『聖武天皇』（ＰＨＰ新書）など著書多数。近著に『令しく平和に生きるために』（潮出版）がある。

宮司　五月に令和と改元されて半年となりました。それまで元号はずっと中国の古典から採られていましたが、初めて日本最古の歌集である『万葉集』から採られたということで、『万葉集』の名が一躍日本国民の口にものぼるほどとなりました。まずこのことについて、その道の研究の第一人者である先生の率直なご感想をお聞かせ下さい。

中西　元号制度は中国の制度ですので、それに従って中国の本から元号をつけるということが当然のように行われてきました。どなたが言い出されたのかわかりませんが、次は日本の古典の中からということになったようですね。これは非常によいことだと思いました。というのは、元号というのは単なる記号ではなくてやはり象徴的な意味があると思うからです。中国の聖典というのはだいたい儒教の教えなんです。儒教の考え方の中で、いいと思われている事柄がそのまま日本に来て一億の人口がある日本人のモラルの基本になるということはイデオロギーの如何に関わらず、少しおかしいと思っていたんです。二千年ぐらいの歴史を経ている国としてのあるべき姿とか、過去への振り返りというものがあるはずだからです。紀元二千年を経て、やっと基本的な考え方になったということは、ささやかに生きている人間として、日本人らしいモラルを持って生きるべきだと、改めて教えてくれたような気がして、今回のことは大賛成ですよ。

「令和」とは「令（うるわ）しく平和に生きること」

宮司　令和という元号に半年ですっかり慣れ、響きのよいものとなりました。新聞報道などによって、その意味合いを知り、この混沌とした世界情勢の中で、和を大事にする、今一番求められている元号であると感心していた次第です。

中西　まず令和の和ですけど、和はイコール日本、大和です。しかも和は和やかで平和という意味があり、それがイコール国を象徴する言葉だという立ち位置を世界に示したと思います。ハーモニーと訳すだけでなくジャパンと訳してもいいわけです。「ビューティフルハーモニー」と外務省は決めたということですが、「ビューティフルジャパン」でもいいわけです。また、聖徳太子の十七条の憲法があります。その第一条「和

対談の様子

万葉集二十巻

をもって貴しとなす」とも繋がっています。そして、令というのは、一言で言えば自立性のある美しさです。自らが自らを縛る、ストイシズムのような中から出て来る美しさです。辞書を引いてもそんな読みはありませんが、「うるわしい」とルビを振ってもよい。ですから私は「令和」とは「令しく平和に生きること」と解釈しています。

宮司　そう伺うと、ますます令和が素晴らしい元号であると思えてきました。それと令和の典拠は『万葉集』の編集に携わったとされる大伴家持の父である大伴旅人が、大宰府の長官をしていた時に邸宅で詠まれた三十二首の梅花の歌の序文から採られたと発表されました。大宰府と聞くと、旅人とは違って菅公が流され、悲憤のうちに亡くなられた場所であり、少し複雑な気もしますが、梅と当宮は切り離せない関係にあり、また、参道には大伴氏の出身である菅公の母親を祀っている末社があり、令和の元号を益々身近に感じるとともに、何か歴史の重みのようなものをひしひしと感じます。

中西　そのお社は何という名前ですか？

宮司　伴氏社と言います。この辺りに大伴氏の所領があったと伝えられ、竜安寺には住吉大伴神社という神社もございます。

中西　そうですか……道真公にはお母さまを通して大伴氏の血が流れており、お母さまを祀るお社が境内にあるわけですね。お話しを聞いていて何かぞくっとするものを感じました。

宮司　伴氏社には、かつては忌明けの塔と呼ばれた大きな宝塔（石造五輪塔）がありましたが、明治の神仏分離令によって一の鳥居のすぐそばにある東向観音寺に移されました。ただ、伴氏社の鳥居は蓮の花の台座がある鎌倉時代の珍しいもので国の重要美術品に指定されています。最近、手を合わせて行く参拝者が増えており喜んでいます。先生、後ほど伴氏社にご案内します。

中西　大伴、伴氏というのは、平安時代に入っていろんな異変があり、不遇なんですよ。

宮司　確か応天門の放火の罪を被せられるのも大伴氏でした。

中西　やはり大伴氏というのは策略の徒であった藤原氏にとって大きな政敵だったのでしょう。

「令和」の元号の典拠になった「梅花の宴」について

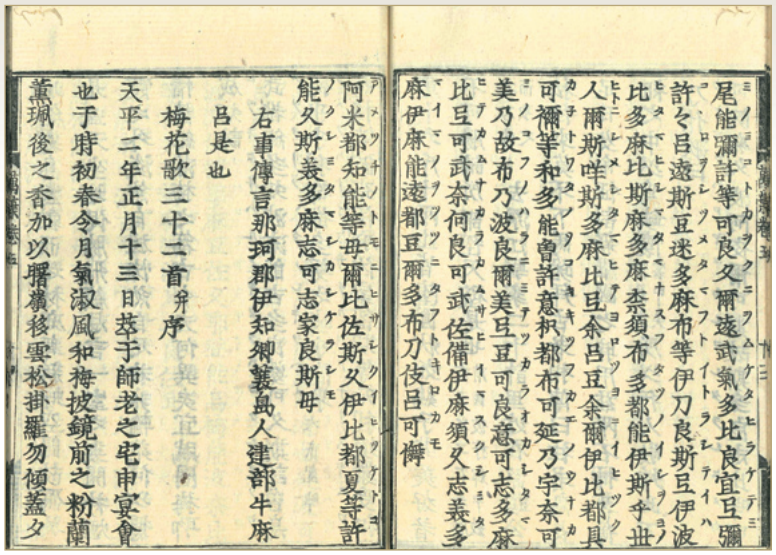
宮司　さて、その令和の典拠になった梅花の宴の序文（「天平二年正月十三日」から始まる）について、もう少し詳しく教えて下さい。

中西　序文は結構長いものですが、採られた部分は「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す」からです。これは単なる時候の挨拶ではありません。旅人の言いたかった自然の状況についての重要な事柄なのです。日本人にとっての自然は哲学だと思います。モラルとしての美しい自然を見ているんです。「うるわしき月、風も和かである……そういう自然を理解し、それをわが身の性にすることが大事だ、そうした中で、こうした歌を詠む宴会を開いたんだよ」と。これって風にこだわっています。春ですから当然東風です。そうすると、道真公の詠まれた「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花 主なしとて春を忘るな」に繋がってくるんです。道真公のこの感覚、発想は、『万葉集』のここを基にしないと出てこないと思います。道真公が相当『万葉集』に足がついていることがわかります。

宮司　そこに繋がるのは薫りですか？

中西　そう、薫りです。ですから「令和」が『万葉集』の出典というなら、天満宮では併せて道真公出典

中西 進 氏



万葉集「梅花三十二首」

としてもいいぐらいですね。

宮司　それはどうも…ありがとうございます。天平時代の梅花の宴、華やかな雰囲気が伝わってきます。

中西　旅人を入れて三十二人の歌の宴でしょう。そんなに大きな車座はできませんから、たぶん八人ずつが四つのグループに分かれていたと思いますよ。

宮司　家持はその時、どうしていたのでしょうか？

中西　まだ十三歳ぐらいの子どもですからこの歌の宴には加わっていません。しかし、後ほどこの様子を詠んだ歌を残していますから見ていたと思います。歌を作りだすのは、それから二年後ぐらいです。

宮司　『万葉集』には家持の歌がたくさんありますね。

中西　『万葉集』には約四千五首が収められていますが、うち家持の歌がざっと一割を占めていますから大変な数です。家持は風土の異なる所を国司としてあちこち回り、多賀城（現在の宮城県多賀城市）で亡くなります。この間も多賀城へ行き、偲んできました。家持は大変な武人でありながら時代を透徹し、多くの秀歌を作った人です。

『万葉集』に深く深く関わられた菅公

宮司　さて、菅公の話に戻りますが、かなり『万葉集』の研究をされていたのですね。

中西　そうですね。私は道真公と『万葉集』のからみを長く調べてきました。今日伝えられている『万葉集』は二十巻から成っていますが、道真公は「数十巻あった」と、書かれています。もっともっと多くの作品があったと思います。今の『万葉集』の編纂に携わったのが大伴家持なら、「新しい万葉集を作ろう」と考えられたのが道真公です。それが『新撰万葉集』（『菅家万葉集』）です。ともかく、道真公は『万葉集』に深く深く関わっておられたのです。道真公の作られた作品の中には『万葉集』から発想されたのではないかと思われるものが幾つもあります。例えば道真公に「都府楼はわずかに瓦の色のみ 観音寺はただ鐘の音を聴くのみ」（漢詩『不出門』）という作品がありますが、観音寺を造ったのは沙弥満誓という梅花の宴にも出ている歌人です。『万葉集』を下敷きにしなければこの発想は出てこないと思います。

宮司　菅公御自身も今の『万葉集』の編纂に関わられたということは…？

中西　編纂とはどういうことをいうのでしょうか？ できているものを纏め直すのも編纂というなら、されていると思います。但し、オリジナルに奈良時代のものを集めたという形跡はありません。

宮司　菅公は「文道大祖」「風月本主」と崇められた文人でした。『菅家万葉集』のお話しを聞いていて、『類聚国史』の編纂のほかにも様々菅公が関わられたのではないか、と言われているものがあります。

中西　道真公は平安前期における知性の代表なんです。シンボリックに「菅公がした」というところに集約されているところもあると思います。大変怜悧な頭をされていた人でした。ただ、すべては右大臣になったことがいけなかったのです。道真公自身は何も悪くはありません。右大臣にならなければ時平との対立はなく大宰府に左遷されることもなかった。文人であり続けてほしかったですね。

一人ひとりが己を立てて満足する

宮司　さて、先生は「中西進の万葉みらい塾」なるものを全国の学校で開かれていた、とお聞きします。

末社 伴氏社

東向観音寺

東向観音寺境内にある伴氏廟

子どもたちと『万葉集』の関わりについて教えて下さい。

中西　『万葉集』は、誰にでもわかるという特色がありますが、その感性を子どもたちに伝えようというものです。小・中・高六十六校でやり、その続きのような形で今でも「万葉こども塾」という連載を朝日新聞でやっています。たとえば「春と秋ではどっちがいい？」という万葉歌人の歌があり、「秋の方が紅葉しないもみじがあるからいい」と詠んでいます。いろんな学者たちが、ああでもない、こうでもないと万葉歌人の感性に頭をひねりました。ところが、私が子どもたちに「君たちはどう思う？」と問うと「紅葉が全部真っ赤だと怖い」と、一瞬で言ってのけたのには驚きました。

宮司　当宮には、そんな子どもたちが修学旅行などでたくさん参拝します。子どもたちに向けてのメッセージがあればお願いします。

中西　私が一番好きなのは「おのがじし」という言葉です。それぞれという意味です。『万葉集』でも家持が聖武天皇を称えて「おのがしし　心足らひに……」と詠っています。職業に貴賤などありません。時流に流されて浮薄にならず、一人ひとりが心の中にあるもの、己を立てて満足する、これが子どもたちの将来像としてあればいいと思います。

宮司　本日は示唆に富んだ様々なお言葉を頂きましてありがとうございました。

対談後、境内南に位置する東向観音寺、大伴氏の祖廟 末社伴氏社へ参拝

中西氏は対談後、末社伴氏社と東向観音寺に参詣され、同寺住職で総本山御寺泉涌寺長老並びに真言宗泉涌寺派管長である上村貞郎師にも挨拶。当宮との御縁など同寺の御由緒を伺い、深く感銘を受けられた様子であった。

東向観音寺は寺伝によれば、平安時代に桓武天皇の勅を奉じて御所の西北に国家鎮護のために建立されたのが始まりであり、建立当時は朝日寺と称された。最鎮和尚が、大宰府で亡くなられた菅公の御神霊をこの地にお迎えして北野天満宮が建てられた後、菅公御作の十一面観世音菩薩を請来し安置。天満宮御本地仏・北野神宮寺または奥之院とも云われ、北野天満宮と深く関わる寺である。

当時の朝日寺は広い寺域を持ち、その一角に菅公を奉祀したと伝わり、現在の境内には明治期の廃仏毀釈の時に当宮より寺内に遷された菅公御母堂（伴氏）の供養塔などもある。この供養塔は元々北野天満宮末社である伴氏社の向かいに建てられていたものである。

総本山御寺泉涌寺長老 上村貞郎師

京都 平安京の天門

北野祭 令和の再興に向けて始動

【祭礼期間】八月三日～十月五日

例祭を中心に、御手洗祭から瑞饋祭まで続く一連の祭礼を執行
期間中には、多彩な神賑行事を奉納

京都随一の祭礼「北野祭」

かつて当宮で最も重要とされた勅祭「北野祭」。朝廷の篤い崇敬のもとに盛儀に執り行われたこの神事は、永延元年（九八七）一條天皇により幣帛が奉られ、官祭として執行されて以来、皇室・朝廷の特別な崇敬を受け、室町時代には幕府主導の祭礼に与り、わけても三代将軍足利義満公の絶大な庇護を受けて北野祭は最盛期を迎えた。

その後の北野祭の変遷は、前号（第二十三号夏号）にも記述の通りだが、令和の御代にあたり、かつての北野祭の流れを受け継ぐ例祭を、本年より九月四日に斎行し、御神徳の更なる発揚を図るとともに、来る令和九年の菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて、例祭を中心に夏の御手洗祭、秋の瑞饋祭を合わせて、「令和の北野祭」と位置づけ、天神信仰の尊厳に相応しい祭として、いよいよ始動し始めた。

菅公御歌

彦星の行あひをまつかささぎの
渡せる橋をわれにかさなむ

御手洗川足つけ燈明神事

今年も盛大に北野七夕祭 厳粛な神事斎行と奉納行事も多彩

国宝御本殿石の間通り抜け神事

「北野七夕祭」を八月三日から約一カ月間にわたり盛大に開催した。京都市が中心となって行う「京の七夕」に協賛し、北野紙屋川エリアとしての参画は五年目となる。「彦星の行あひをまつかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」の菅公の七夕の御歌にちなんで当宮では古くから七夕信仰が伝えられており、期間中厳粛な神事斎行と多彩な奉納行事が繰り広げられ、連日賑わった。

六百五十人が参加し、盛大に開会セレモニー「京炎そでふれ！花風姿」が演舞奉納

開会セレモニーは三日夕、一の鳥居前から参道を行進し、絵馬所前で行われた。地域住民・上七軒歌舞会の芸舞妓・幼稚園児ら昨年を上回る六百五十人の参加者が集う中、門川大作京都市長や橘宮司が力強く開会の挨拶を行った。同志社女子大学の「京炎そでふれ！花風姿」による演舞奉納が威勢よく行なわれた後、参加者は一般参拝者に先駆け、裸足になって御手洗川に入っての足つけ燈明神事と国宝御本殿石の間通り抜け神事に臨んだ。

厳かに「御手洗祭（みたらしさい）」を斎行

七日午前十時から御本殿で、菅公御遺愛と伝わる「松風の硯」や梶の葉、季節の野菜などをお供えし「御手洗祭」を厳粛に斎行した。菅公の七夕の御歌にちなんで古くから七夕行事執行の記録が残されており、「御手洗祭」は七夕神事の重儀で、五穀豊穣と万民の無病息災を祈願した。

御土居・境内ライトアップで幻想的に 御手洗川足つけ燈明神事 御本殿石の間通り抜け神事

御手洗川に足をつけ、五色の燈明をあげて邪気を祓う足つけ神事は八月十日～十二日、十六日～十八日の六日間行なわれた。この間、境内・御土居はライトアップされ、幻想的な雰囲気に包まれ、昼も夜も参拝者で賑わった。とくに十六日からは国宝御本殿石の間通り抜け神事もあり、御手洗川で身を清めた参拝者が、日ごろは神職しか入れない石の間に入って御神前に手を合わせ、御神宝に見入っていた。また、絵馬所前では北野御手洗団子茶屋もお目見えした。

七夕五色百人一首大会に小学生が熱戦を展開

「第四回七夕五色百人一首北野天満宮大会」が十日、社務所大広間に約

願いを込めて、五色ろうそくに火に燈す参列者

京炎そでふれ！花風姿による奉納演舞

北野七夕祭オープニング
地域の方々含め約650人が参列

学業大祭

祈願絵馬・七夕祈祷木焼納式

四十人の小学生が参加して開かれた。

京都府内の教職員らで組織する「TOSSいちばん星」の主催。青・緑・黄・橙・桃の五色（各二十枚）の札を取り合う百人一首で一試合五分程度の早い展開が特徴。

四年生までと五年生以上の両部に分かれ、予選を勝ち抜いた決勝トーナメントは青札のみを使って熱戦を展開し、各上位者に当宮から賞状と記念品が贈られた。

天神さん子ども将棋交流大会

「天神さん子ども将棋交流大会」（日本将棋連盟京都府支部連合会主催）が十一日、文道会館に小中学生五十五人が参加し行なわれた。

学問文芸の神である天神様にあやかり、当宮を会場に開催して三回目の大会。有段者・級位者に分かれて熱戦を展開し、成績優秀者に当宮から賞状と記念品が贈られた。森信雄七段や野間俊克六段らとの指導対局もあり、将棋を学ぶ子どもたちにとっては腕を磨く絶好の一日となった。

賑やかに踊りの輪「上七軒盆踊り」

恒例の「上七軒盆踊り」（上七軒匠会主催）が十一日夕から夜にかけ上七軒歌舞練場周辺で盛大に行なわれた。

先ず上七軒匠会会員や芸舞妓らが御本殿前で参拝をした後、歌舞練場近くの会場まで移動。開会式があり、匠会の内海博史会長、門川大作京都市長、宮司がそれぞれ挨拶した後、上七軒音頭や西陣音頭、炭坑節など威勢の良い音頭にのって踊りの輪を広げた。途中、神若会北野天神太鼓会の太鼓演奏をはさみ、踊りは上七軒通まで繰り出して行なわれた。

学業大祭を斎行、健やかな成長・成績向上を祈願
中ノ森広場では祈願絵馬・七夕祈祷木焼納式

学業大祭を十二日午前十一時から御本殿で親子連れなど約五百人が参列の下、斎行した。

祝詞奏上の後、参列者代表の中学生による玉串拝礼に合わせ全員が健やかな成長・学業の向上を祈願した。

また、この日午前八時から境内の中ノ森広場斎場で「祈願絵馬・七夕祈祷木焼納式」を斎行、昨年度一年間に奉納された十万枚をこえる祈願絵馬や北野七夕祭などで奉納された多数の祈祷木を厳かに焚き上げた。

天神さん子ども将棋交流大会

上七軒盆踊り

七夕五色百人一首大会

写真左より　大関 谷内田 翔平　横綱 谷口 矢恵　大関 柏谷 賢人

健やかな成長を祈願 泣き相撲

勇壮に「七夕太鼓」奉納 北野天神太鼓会

神若会北野天神太鼓会による「七夕太鼓」の奉納が十一日午後、文道会館前で行われた。日本伝統芸能の「猿回し」とのコラボレーションとなり、「三宅」「翔龍天舞」など三曲を披露し、参拝者を楽しませた。

大声で泣いて赤ちゃんの成長を願う「第五回北野天神泣き相撲」

「第五回北野天神泣き相撲」が、三十一日文道会館に二歳までの赤ちゃん約百人が参加して行なわれ、館内は元気の良い赤ちゃんの泣き声がこだました。

相撲の祖・野見宿禰（のみのすくね）公が菅公の十九代前のご先祖という御神縁や菅公の文武両道の信仰から、大声で泣くことで天神さまの御加護を受け、健やかな成長を願う神事。京都市立日吉ヶ丘高校の相撲部員が力強く四股を踏むパフォーマンスで幕開け。

お父さんやお母さんに抱かれた赤ちゃんは、かわいらしいまわしに鉢巻きを締め、行司の「はっけよい」の掛け声でにらめっこ。すぐに泣き出す赤ちゃんがいれば、まったく泣かない赤ちゃんもおり館内は爆笑の渦に包まれた。

泣きっぷりなどの判定によって横綱・大関・関脇・小結の各賞のほか特別賞も選ばれた。

「第二回ものづくりTenmangu」

「第二回ものづくりTenmangu」が三十一日と九月一日の両日、中ノ森広場で開催され、アクセサリーや木工品・陶器などの手づくり品のブースや食べ物のブースなど二日間で約二百店が並び、賑わいを見せた。

白拍子の奉納が参拝者を幽玄の世界に誘う

院政期から鎌倉期にかけて流行した幻の芸能といわれる白拍子の奉納が、十日夜神楽殿で行われた。

白拍子研究所の五人の演者が篝火がたかれる中、「彦星の行あひをまつかささぎの……」と菅公作の御歌などを歌いながら舞い、参拝者を幽玄の世界に誘った。

鎌倉時代の公家の日記『民経記』には、北野社において白拍子が召しかかえられていたとの記述があり、同研究所は白拍子の文化を研究、再現を試みている団体で、当宮の曲水の宴でも奉納している。

ものづくりtenmangu

白拍子奉納

北野天神太鼓会七夕太鼓奉納

令和最初の例祭、旧暦に復して九月四日に斎行御本殿に百人参列

斎主一拝

北野祭再興に向けて始動――

令和最初の例祭を旧暦に復し、九月四日午前十時から御本殿において神社役員や氏子崇敬者ら百人の参列のもと厳かに斎行した。例祭は、かつての勅祭北野祭を引き継ぐ当宮の祭典としては最も重要な大祭として昨年までは八月四日に斎行してきたが、今年は令和最初の年として祭礼日を改暦以前に合わせ、ひと月遅れとしたもので、北野祭再興に向けて始動した。

例祭は一條天皇の永延元年（九八七）八月五日、宣命によって「北野天満大自在天神」の神号を賜り勅祭（北野祭）となった。永承元年（一〇四六）、母后の国忌に当たるとして一日早い八月四日を北野祭とし、今日の例祭に至っている。

往時の北野祭は、神輿を中心に豪華絢爛な中にも王朝文化を漂わす雅な祭列が渡御しており、その様子は当宮所蔵の『北野祭礼図絵巻』にも描かれている。しかし、応仁・文明の乱の混乱により北野祭の祭列は途絶え、現在では例祭としての祭典のみを斎行し、祭列は瑞饋祭の中に組み込まれた形で引き継がれている。令和九年の菅公千百二十五年半萬燈祭に向け様々な形で旧儀の復興に取り組んでおり、北野祭の中核ともいえる神輿の再興も決まっている。

御本殿での例祭は、宮司が恭しく祝詞を奏上した後、四人の巫女が菅公五歳の時の御歌を基に作曲作舞された巫女舞『紅わらべ』を奉奏した。宮司の玉串奉奠に引き続き参列者の代表が次々玉串を捧げて皇室の弥栄・国家安泰・氏子崇敬者の無病息災を祈願した。

この後、参列者は文道会館に移動。宮司が挨拶に立ち「千百二十五年半萬燈祭に向け、様々な旧儀の復興などに取り組んでいる最中です。本日は令和最初の例祭に当たり旧儀に戻して北野祭と称して斎行しました。七年半後には、かつての勅祭のような賑わいのある北野祭にしていきたい」と抱負を述べた。

北野文化研究所の西山剛特別研究員が「北野祭―例祭の復興」と題し講演

この後、北野文化研究所の西山剛特別研究員（京都文化博物館学芸員）が「北野祭―例祭の復興」と題して講演した。西山氏は、かつての勅祭北野祭がどのようなものであったかを詳しく解説し、例祭が旧暦に戻して斎行されたことについて「新暦と旧暦では気候が異なる。本来の季節に合わせて祭・儀式を行うことは大変意義がある」と指摘。さらに先般発見された最古級の神輿金具に言及し、北野祭の神輿には最上の金属工芸が使われていたことを紹介、「村上天皇や一條天皇御寄進の伝承があ

斎主祝詞を奏す

巫女舞「紅わらべ」奉奏

基調講演「北野祭再興について」北野文化研究所 西山 剛 特別研究員

神輿古金具　鎌倉時代～室町時代

る。時代的にはそこまではいかないもののデザインや意匠は確実に平安期に遡る」とし、「現在の神輿の中にも中世にさかのぼる古い部材が残っている」と話した。

また、神輿を飾った装飾についても天皇や公卿の衣装を織っていた大宿禰神人の存在をあげ、「後に西陣で織物を担う人たちに繋がる」とし、「その神輿は朝廷に所属する禁裏駕輿丁（四府駕輿丁）の人によって舁かれ、渡御するという格式のあるものだった」と話した。北野祭は幕末期、孝明天皇の御代に臨時祭として復興を遂げるが、「この時にも恐らく禁裏駕輿丁が祭礼に関わったと思う。御土居の入り口に慶応三年に安本秀綱という人が奉納した石燈籠があるが、この人こそ四府駕輿丁であり、幕末まで朝廷の駕輿丁の北野天満宮への信仰が確認できる」と指摘した。そして、「北野祭・その神輿にはどこをとっても天皇や朝廷との繋がりが見える。その上で地域の人々の思い、織物など地域産業の思い、そういうものが合体、集合していたのがかつての北野祭の姿だったといえる」と結んだ。

最古級の神輿金具発見で記者会見
宝物殿の至宝展で披露

当宮校倉で昨年、鎌倉期から室町期に製作された極めて古い神輿古金具が発見された（社報二十三号掲載）ことを受け、応仁・文明の乱で途絶えた勅祭「北野祭」の神輿を飾った金具である可能性が高いとして七月四日、記者会見して発表し、六日から八月二十五日まで宝物殿で開いた「北野天満宮の至宝（第四期）」展で披露した。

神輿を飾った古金具は全部で約三十点見つかり、金工の専門家の久保智康氏（京都国立博物館名誉館員）の協力で詳しく調べた結果、うち三点の板状の金具が極めて古いものであることがわかった。

これらは銅に鍍金した透かし彫りの板金具で、最も古い板金具は平安時代後期に流行した「宝相華」文様を踏襲して製作されており、鎌倉期のものとみられ、この板金具の下部に取り付ける青や赤の玉のビーズの装飾品も遺っていた。

また、他の二点は鎌倉期のものを模して室町期に製作されたとみられるという。

現存する最古の神輿は、鞆淵八幡神社（和歌山県紀の川市）の所蔵（平安末期～鎌倉初期、国宝）で、当宮で発見された鎌倉時代の神輿金具は最古級のものといってよく、大変珍しいという。

なお、神輿金具を披露した「北野天満宮の至宝」展では、北野祭の神輿などの行列を描いた『北野祭礼図絵巻』（江戸時代）も展示し、豪華絢爛だった北野祭の様子を参拝者に披露した。

野菜奉納 京都市農協朱雀野支部

直会（文道会館多目的ホール）

京都伝統の秋祭り
瑞饋祭（ずいきまつり）
十月一日～十月五日

北野祭礼図絵巻（部分）

瑞饋祭厳粛に斎行
「北野祭」再興に向けての思い込め
神幸祭・還幸祭 華やかな祭列に沿道沸く

瑞饋祭（ずいきまつり）を十月一日から五日まで、厳かに華やかに斎行した。京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭。三基の御鳳輦を中心に豪華な祭列が氏子区域を巡行する一日の神幸祭、四日の還幸祭ともに、沿道では大勢の市民や観光客が見守り、御旅所やその周辺は期間中多くの露店が並び、参拝者で賑わった。

瑞饋祭は御祭神が渡られる御旅所に、ずいき芋などの野菜で飾った「ずいき御輿」が奉安されることからその名がつけられた。今では御鎮座の往時を偲ぶとともに秋の実りに感謝する祭りとして親しまれているが、神幸祭・還幸祭の雅な祭礼行列は、応仁・文明の乱で途絶えた勅祭「北野祭」の祭列が、時流の変遷によって遷されたものとされる。来る千百二十五年半萬燈祭に向けて、かつての「北野祭」の姿を現代に蘇らせることを目途として、供奉者は、その思いを募らせての巡行となった。

還幸祭　村上天皇御寄進 第一鳳輦、八乙女稚児列等渡御列

神幸祭の一日、午前九時から御本殿で御祭神の御霊を御鳳輦にお遷しする出御祭を斎行。午後一時、三基の御鳳輦を中心に獅子・導山・松鉾・梅鉾・花傘などの威儀物や八乙女稚児等、神職などの祭列が一の鳥居前を出発し、十月とは思えぬ炎暑の中、氏子区域を巡行した。鳥居前では北野祭保存会・北野神輿会によって参拝者や一般市民を対象にした「担い茶屋茶会」も開かれた。

祭列が到着した御旅所では、三基の御鳳輦を前に着御祭を斎行。八乙女が鈴舞と田舞を奉奏した。

二日は御旅所で表千家の左海大宗匠（さかいひろし）ご奉仕による献茶祭が執り行われ、御祭神に濃茶・薄茶を奉られた。夕刻には神若会北野天神太鼓会による和太鼓の奉納も行われた。

晴天の下行列出発

御羽車

甲御供奉饌

瑞饋祭献茶祭 表千家 左海（さかい） 大（ひろし） 宗匠御奉仕

神幸祭　八乙女舞奉奏

三日は午後三時から西ノ京七保会による特殊神饌「甲御供」奉饌があり、夕刻には「担い茶屋」による献茶と茶会が催された。

還幸祭の四日は、午前十時から御旅所で出御祭を斎行後、午後一時、三基の御鳳輦を中心に神幸祭と同様の祭列が御旅所を出発。牛の曳く御羽車も加わってひと際豪華な渡御列が、氏子の方々の見つめる中、花街上七軒などを静々と巡行した。通過する御鳳輦に向かって手を合わせるお年寄りらの姿もあちこちで見られ、年に一度の巡行は盛儀のうちに無事執り行われた。

一方、祭礼期間中、御旅所境内に奉安された「ずいき御輿」は、西之京瑞饋神輿保存会の人たちによって祭列とは別の順路で本社まで巡行し、東門前でお祓いを受けた。

后宴祭は五日午後三時半から御本殿で斎行され、御神前で八乙女が鈴舞と田舞を奉奏し、今年の瑞饋祭の諸祭儀を恙なくすべて執り修めた。

瑞饋御輿巡行

八乙女稚児行列

花　傘

担い茶屋茶会

◎祭礼日程

一日	神幸祭	午後一時　行列出発
		午後四時　御旅所到着
二日		午前十時　献茶祭（表千家宗匠奉仕）
三日		午後三時　甲御供奉饌（七保会奉仕）
四日	還幸祭	午後一時　行列出発
		午後四時半　本社到着
五日		午後三時半　后宴祭（八乙女舞奉納）

令和元年度　瑞饋祭稚児奉仕者名簿

役名	名前
八乙女	泉　珠以
	宮階　愛梨
	横山　葵
	久保田　花音
	保田　小和
	水谷　凛
	菅　ひまり
	清水　ことり
童子	畠山　凌一
	岡部　吉希
水干	岡野　幸芽
	田井　秀明
半尻	岡野　陽音
	安田　麗
汗衫	川島　采唯
	宮本　桜礼
袴	田井　宏樹
	水上　仁
	石橋　裕久
	末友　誠汰郎
	平澤　亮太
	江村　和哉
	金城　和
	越智　忠義

神若会北野天神太鼓会　和太鼓奉納

京都 平安京の天門

空前絶後の「北野大茶湯」を今に 秋の伝統神事始まる

豊太閤北野大茶湯図　浮田一蕙筆

毎年十二月一日、御本殿にて斎行する献茶祭に向けて、茶の湯と御縁深い当宮境内では、十一月から秋の伝統神事が始まる。

「若党、町人、百姓已下によらず」秀吉公の北野大茶湯

天正十五年（一五八七）十月一日、当宮境内松原一帯で催された北野大茶湯は、空前絶後と言えるほどの盛況さであった。秀吉公がこれを構想したのはいつであったのか定かではないが、大茶湯開催の高札が立てられたのは当日のおよそ二ヶ月前。それは京都外にも立てられ広く全国に呼びかけられた。「御定之事」と題された触書。そこには「茶湯熱心之者は、若党、町人、百姓已下によらず、釜一つ、釣瓶一つ、呑物一つ、茶は焦がしにても苦しからず」と書かれ、男女・貧富・出身国の区別もなく、茶の湯に興味がある者なら誰でも参加して良いと定めたのである。この大茶会は十日間予定され、初日には京都だけでなく大坂や奈良・博多まで、全国の大名達も訪れ、その数総勢千人にも及んだという。茶を振る舞ったのは秀吉公を始め千利休・津田宗及・今井宗久といった天下の三茶人とも称される当代きっての茶人であった。茶席の数は八百とも千五百とも言われ、京都及び各地の茶人の席が並んだ。一般には籤取りが許され、一番籤は秀吉公、二番籤は千利休、三番籤は津田宗及、四番籤は今井宗久から、拝殿に設けられた茶席でお点前を受ける事が出来たと伝わる。九州での一揆勃発によりこの大茶会は一日で幕を閉じるが、それまでの大徳寺茶湯・禁中茶会に続

茶室松向軒に残る細川三斎公が用いた井戸

北野大茶湯高札

ご奉仕される表千家不審菴 千宗左宗匠（平成25年当時）

御神前に献上された御茶壺

く、秀吉公の権威を象徴する一大行事であった。当宮境内が会場となった理由については、まず秀吉公の天神信仰。そして菅公御自身「茶祖」と呼ばれる程に、お茶を学問として最初に研究された方である事。さらには辺りの水質が非常に優れていた事なども挙げられる。この事を現代まで色濃く残す井戸が境内に残っている。楼門手前の「太閤井戸」や、松向軒の「三斎井戸」、又上七軒西方尼寺には「利休井戸」が現存する。当時から四百年以上経た今でも、境内の明月舎・松向軒の二つの茶室では毎月月釜が掛けられ、茶の湯文化を現代に伝えている。

御茶壺奉献奉告祭 並びに口切式

十一月二十六日、献茶祭に使用される碾茶（てんちゃ）が、御茶壺道中によって御神前に献上される。これは山城六郷の各茶師・茶商により茶壺に茶葉を入れられ奉納される。御茶壺行列は松向軒前を出発し、紺色着物にあかね襷、姉さんかぶりの茶摘み娘が御本殿まで先導する。御神前に供えられ奉献奉告祭執行の後、古式ゆかしく口切式を執り行う。この日の祭典に始まり、十二月一日の献茶祭へと続く一連の行事は、前述の「北野大茶湯」の御縁による独特なものであり、四百年余りの歴史を持つ。

献茶祭、今年は 表千家不審菴 千宗左宗匠のご奉仕

十二月一日に斎行する献茶祭は、在洛の四家元二宗匠が輪番で六年ごとに行うものであり、本年は表千家不審菴 千宗左宗匠のご奉仕となる。又当日は、社務所広間に拝副席、明月舎に本席、松向軒や上七軒歌舞練場などにも副席が設けられる。絵馬所には、京都の老舗和菓子屋二十店で組織される菓匠会による飾り菓子が出店され、各地からの参拝者や雅客で賑わう。

御茶壺奉献奉告祭・口切式

古式ゆかしく御茶壺道中

もみじ苑展望所から眺める国宝御本殿

曲水の宴の様子

史跡御土居のもみじ苑開苑

境内西側に広がる史跡御土居のもみじ苑が十月二十五日から開苑（閉苑は十二月八日）し、いよいよ本格的な秋の到来を告げた。

天下人秀吉公の京都の街づくり総仕上げとも言える事業に、御土居の築造があった。総延長二十二・五キロにも及ぶ土塁で、洛中洛外を明確に分けることになった。又外敵の侵入を防ぐことや、氾濫の多かった鴨川・紙屋川の洪水対策など、その目的は様々な議論がされているが、時代と共に必要性が薄れ取り壊され、今では市内に九カ所が残るのみである。その御土居を今に伝えるべく、毎年秋にはもみじ苑として公開している。約三百五十本の紅葉が一斉に色づく光景はまさに圧巻で、京都随一の紅葉の名所として広く知られるようになった。初日は御縁日ということもあり、全国各地から多くの参拝者で賑いを見せた。十一月九日からはライトアップが始まり、期間中は例年通り多くの奉納行事が執り行われる。

京都連歌の会

露の五郎兵衛一門　もみじ寄席

白拍子奉納（紅梅殿）

十一月三日
菅公顕彰・和漢朗詠　秋の曲水の宴

和漢朗詠による「曲水の宴」再興から四年目となる今年も、紅梅殿船出の庭にて雅やかに開催する。曲水の宴は、庭に流れる小川に、酒を入れた杯を流して飲み、題に即した詩を賦す雅な宴。奈良・平安時代には宮中を中心に盛んに行われた。宇多天皇に重用された菅公は、天皇主宰の曲水の宴に幾度も招かれており、その折に創られた詩文も幾つか遺されている。平成二十八年に再興した当宮の曲水の宴は、和歌だけでなく漢詩も披露し、より当時に近い形で、菅公を顕彰する独自の形式である。

十一月三日は例年通り、第一部（午後二時から）第二部（午後三時半から）の二回行う。第一部はこの日斎行する講社大祭の参列者、第二部は一般参拝者にご覧いただく。

第三回「全国梅酒まつりin京都」開催

全国の蔵元から最多の百五十一銘柄出品
絵馬所などの試飲コーナー大賑わい
御本殿に出品の梅酒供え、厳粛に奉納式

多数の来場者で賑わう飲み比べ会場

今年で三回目となる「全国梅酒まつりin京都」が、九月十三日から十六日まで当宮で開催された。全国各地の蔵元からこれまでで最多の数となる百五十一銘柄の梅酒が出品され、四日間とも好天にも恵まれた絵馬所や梅苑茶店界隈は、飲み比べする人や購入する人たちで大賑わいだった。

「梅の名所の天神さまの総本社で日本全国の梅酒を飲み比べてみませんか」と、梅酒の愛好者で組織する一般社団法人梅酒研究会（明星智洋代表理事）が、梅酒の普及を願って開いた催しで、今年が三年目となる。

開会に先立ち、十三日午前十一時から御本殿において出品された梅酒を御神前にお供えしての梅酒奉納式が厳粛に斎行され、参列した主催者や来賓の代表が玉串を奉奠して、梅酒の普及や関係者の無病息災を祈願した。この後、主会場の絵馬所前に移動し、来賓挨拶に引き続き、テープカットが行われ、梅酒まつりが始まった。

出品された梅酒は、これまでで一番多い百五十一銘柄。「ホワイトリカー梅酒」「本格焼酎梅酒」「日本酒梅酒」「柑橘系ブレンド梅酒」など八つのカテゴリーに分類されており、「カテゴリー別に飲み比べ、その魅力を知ってほしい」というもの。

梅酒まつり専用のコイン「梅銭」を購入して、小さなカップでお好みの梅酒を試飲していくもので、係員の説明を聞きながら試飲を楽しみ、お目当ての梅酒を見つけて購入する人も多く、夕刻まで賑わいを見せた。

全国から奉納された梅酒

北野天神太鼓会が「梅酒まつり太鼓」演奏

とくに十四日から十六日は、土日・祝日の三連休、加えて絶好の好天とあって会場周辺は、あちこちで長い行列が出来るほどの混みようとなり、外国人観光客の姿も数多く見られた。

神若会北野天神太鼓会は今年も十六日、梅苑茶店広場で、梅酒まつりに協賛しての太鼓演奏を行ったため、多くの参拝者が梅酒を楽しみながら勇壮な太鼓の演奏に耳を傾けていた。

絵馬所から梅苑茶店広場に抜ける通路には、泣き相撲の”赤ちゃん力士“の写真が展示されたため、立ち止まって見入る人が相次いだ。

梅酒太鼓の奉納

国宝をアニメートする KYOTO NIPPON FESTIVAL開幕

日本文化の中心地・京都。その文化の礎を築いた天神信仰発祥の地である北野天満宮から、伝統文化の魅力を国内外に発信するKYOTO NIPPON FESTIVALが開幕。四回目を迎える今年は十月二十五日から十二月八日までの間、「初音ミク×京都」「北野天神縁起絵巻×ソードアート・オンライン×華道家元池坊」のコラボレーションを実現。日本が世界に誇るカルチャー・コンテンツを通じ、国宝に新たな命を吹き込む。

当宮に奉納された美術的作品をヒントに現代イラストを奉納　於 文道会館

日本では古くより、神様は馬に乗り人の世界に降臨するとの考えがあった。馬が神聖な乗り物であるとするが故、御神威にあずかる為、また祈願のために馬を奉納する習慣が次第に出来上がる。馬は我々人間にとって農業や運搬に欠かすことのできない動物でもある為、生きた馬をやめ土や木で作られた馬形を奉納するようになる。これがさらに簡略化され、板に馬の絵を描いた絵馬が登場する。

三十六歌仙額 慶長元年奉納

「絵馬」という言葉が初めて文献に見えるのは、平安時代中期当宮への奉納記録である。『本朝文粋』巻十三所収の寛弘九年（一〇一二）六月二十五日大江匡衡が北野社に「色紙絵馬三匹」とあり、この頃には絵馬が存在していたことがわかる。鎌倉から室町へと時代が進み、その習慣は庶民にも広がりを見せる。図柄も多様化し信仰する神仏やその眷属、また祈願内容を直接書いたものも見られた。

現在絵馬所にかかる三十六歌仙額

桃山時代に入ると大型の絵馬が奉納されるようになる。絢爛豪華な桃山文化の影響を受けて、大型かつ扁額式の大絵馬が発達し、絵師や画家が健筆をふるうようになった。この流れの中で、当宮へも多くの美術的作品が奉納され御本殿には収納ができなくなり、絵馬所が建立されることになる。

当宮の絵馬所は慶長十二年（一六〇七）に建てられたもので、京都では最も古い。今回のKNFはここに奉納された三十六歌仙額に焦点を当てる。

三十六歌仙は、平安時代の和歌の名人を集めたものであるが、これも御祭神菅公が詩歌に優れ、和歌の神様として信仰されてきたあかしであると言える。

所蔵する最古のものは慶長元年奉納の三十六歌仙額。三十六図全て上畳の上に坐す形で描かれている。この他、慶安元年東福門院ご寄進の三十六歌仙図（宝物殿展示）、また長谷川等伯や蘇我直庵など、絢爛豪華な桃山文化を代表する絵師の奉納絵馬が数多く現存する。

そして現代。多くのイラストレーター（絵師）は、自身が描いた絵をネット上にアップロードし、世界中から反応を得ることができる。

”奉納“は神様に最上のものを捧げることであって、”アップロード“は自身の最良作品をネット上の空間に上げる（送信する）ことである。この類似点にヒントを得たのが今回のイラスト奉納企画である。

昌俊弁慶相騎図絵馬　長谷川等伯筆

「初音ミク×京都」

世界最大級のイラストコミュニケーションサービス『pixiv（ピクシブ）』にて「京都」をテーマにした初音ミクのイラストコンテストを開催。初音ミクは、日本が世界に誇るバーチャルアイドルである。当宮に奉納されている平安時代の和歌の名人を集めた「三十六歌仙」にちなみ、応募の中から三十六人を”三十六画仙（がせん）“と称し選出。各賞発表の上、展示し奉納する。

プロ・アマ問わず、イラストレーターにとっても初のイラスト奉納企画とあって一、〇〇〇を超える応募があり、京都の魅力を発信する優れた作品が集まった。

「六人の絵師が描く、”現代版北野天神縁起絵巻“」

北野天神縁起絵巻は、菅公の激動の御生涯、薨去後よみがえり御霊として躍動する姿、また北野天満宮の創建と霊験譚をまとめたもので、全九巻四十三場面に渡る壮大な絵巻である。中でも承久本は現存最古の作例で国宝に指定され、日本美術史上屈指の名品であると評価されている。今年は京都非公開文化財特別公開期間（十一月一日～十日迄）に展示予定であるが、大画面に展開する雄渾な人物表現や迫力ある線描、情感にあふれる豊富なモチーフ描写など見どころが多い。

このほか、鎌倉時代に成立した「弘安本」、室町時代に成立した「光信本」、江戸時代に成立した「光起本」などの優品が当宮に残る。これらは当時一流の絵師が手掛け、奉納した作品群である。長い歴史の中で絵師たちは、信仰のあかしとして絵巻を描き、信仰の中で自らの技術を向上させていったのである。

時代は令和。現代を代表する六人のプロイラストレーターを”六画仙（がせん）“と称し選抜し、天神縁起の著名な六場面を現代の解釈でイラスト化。時代ごとにまとめられた「承久本」「弘安本」「光信本」「平成記録本」に続き、「現代版」ともいえる六連作を公開する。イラスト化されるのは北野天神縁起絵巻承久本『幼児化現』『紅梅殿別離』『船出』『清涼殿霹靂』『日蔵上人六道巡歴』『綾子託宣』の六場面。この試みは、天神縁起がたどってきた長い歴史と取り結び、天神縁起に新たな風を吹き込むものと言えるだろう。本展では、これまでにない新たな感覚の天神縁起に触れ、新たな角度から天神信仰に思いを巡らせていただければ幸いである。

ソードアート・オンライン×北野天神縁起絵巻×池坊　於 宝物殿

宝物殿では、「北野天神縁起絵巻」と、近未来の世界を描く「ソードアート・オンライン」、「華道家元池坊」のコラボレーションを展開。北野天神縁起絵巻（光信本・光起本・平成記録本）や、室町時代の境内の様子がうかがえる「北野曼荼羅」。さらには源氏の重宝「鬼切丸」などの刀剣を一挙に公開。これらの宝物については、若い世代にも知っていただけるよう、ソードアート・オンラインのキャラクターによるオリジナルボイスドラマを制作しその中で解説。

また、いけばなの根源である「華道家元池坊」は、四季折々に咲く花の命を、先人から受け継がれてきた心と技で、五百五十年の間人々を魅了してきた。磨き抜かれてきた伝統文化とポップカルチャーの融合はどんな革新をもたらすのか、披露される生け花に注目である。

今から四百年余り前、境内では豊臣秀吉公が北野大茶湯を催し、出雲阿国は初めてややこ躍り（歌舞伎踊り）を演じた。古くより神社は参拝の場のみならず、絵や歌・武道などを奉納し、発表する社交場・文化の発信地であった。

「国宝をアニメートする。」これは日本文化を発信し続けてきた北野の地だからこそできるテーマであり、ご参拝の皆様には秋のもみじ苑と合わせ、ぜひ本展覧会並びに多彩な催しを様々な観点からご堪能いただきたい。

北野の光

斎行された祭典・行事《七月～八月》

新茶奉献奉告祭を斎行

茶業界の発展を祈願

今年の新茶を御神前にお供えして茶業界の発展を祈願する新茶奉献奉告祭を七月二十五日午前十一時から御本殿で斎行した。

新茶を奉献された宇治・宇治田原・城陽・佐山・和束・井手・京田辺・醍醐・向島・山城・南山城・信楽などの生産地を始め京都市茶業協同組合から約四十人が参列された。

生産地の代表や賣茶本流家元の渡邊琢祥宗匠らが玉串奉奠し、茶業界のさらなる発展と関係者の無病息災を祈願した。

猛暑の中で「大福梅」土用干し

正月の縁起物「大福梅」となる梅の実の土用干しが七月十日から四週間がかりで行われた。

境内には五十種、約千五百本の梅の木があり、六月に採取した約二・二トンの梅の実は樽で塩漬けにされていた。土用干しは、この梅の実を夏の太陽に当ててカラカラになるまで干す作業。神職・巫女・職員らがムシロを敷いた台の上に樽から出した梅の実が重ならないように丁寧に広げた。

猛暑の中、甘酸っぱい梅の香が境内一杯に漂い、参拝者が足を止めて見守った。土用干しを終えた梅の実は再び樽で塩漬けにされ、事始めの十二月十三日から「大福梅」として参拝者に授与される。

夏の文化財防火運動

上京警察署も初参加して消防訓練

夏の文化財防火運動初日の七月十二日、上京消防署と当宮自衛消防隊、初参加の上京警察署など総勢約六十人による合同消防訓練が境内で行われた。

国宝の御本殿東楽の間から出火、延焼中で、逃げ遅れた参拝者が一人いるほか刃物を持った放火犯人らしい男が境内をうろついている―という想定。発報と同時に放水や負傷者の救出、御本殿内の宝物の搬出などをテキパキと行った。また、その間、上京署員扮する刃物を振り回す男を数人の署員が取り押さえるという「捕り物劇」もあり、迫真の消防訓練となった。

訓練後、参加者全員が整列し、宮司、有吉卓也上京警察署長、白岩治上京消防署長が挨拶や講評などを行い、国宝の御本殿を始め貴重な文化財を火災や不測の事態から守るため、今後もたゆまぬ訓練を続けていくことの重要性を指摘した。この後、職員に対する消火器使用法の指導や心肺蘇生法の講習なども行われた。

感性溢れる六百十六点一堂に
奉納図画展　二百九点が入選

夏休み恒例の北野天満宮奉納図画展が八月二十三日から三十一日まで絵馬所で開催され、出品された二歳の幼児から中学校三年生までの全作品六百十六点が一堂に展示された。

同展は、子どもたちが夏休み中に描いた作品を奉納し、図画の上達と健やかな成長を祈願する六十数年の歴史を誇る当宮ならではの夏の催し。動植物や当宮境内などを描いた子どもの感性溢れる作品が参拝者の目を楽しませた。

審査は展示初日の二十三日、三輪晃久（日本画家）、伊庭新太郎（洋画家）の両先生と宮司によって行われ、二百九点の入選作品が決まった。

入選者授賞式で図画の上達と学力向上を祈願

入選者授賞式は、展示最終日の三十一日午後三時から御本殿に入選者と保護者が参列して行われた。奉告祭でのお祓いの後、入選者を代表して藤中創太さんが玉串を捧げ、参列者全員が図画の上達と学力の向上を祈願した。橘宮司が「どの作品にも子どもの感性がみなぎっていました。その感性を忘れずに育っていって下さい」と激励の言葉を述べ、一人ずつ賞状と記念品を手渡した。

入選者氏名【敬称略】

【天満宮賞】崎出浩太郎（京都きらら幼稚園年少）、平川一華（同志社幼稚園年少）、谷口睦樹（今宮幼稚園年中）、松井裕真（北野幼稚園年中）、井上実奈穂（北野幼稚園年長）、村東樹（北野幼稚園年長）、高橋佳誉子（紫明小一年）、針貝香澄（ノートルダム学院小二年）、井倉右託乃（西陣中央小三年）、中田もも（高倉小四年）、福知愛実（養正小五年）、藤中創太（仁和小六年）、佐藤奨真（同志社中三年）

【京都新聞特別賞】大原あずみ（西山小一年）

【京都新聞賞】鵜飼幹大（北野幼稚園年少）、河合真佑（京都きらら幼稚園年少）、廣瀬俊太郎（北野幼稚園年中）、白波瀬太一朗（北野幼稚園年中）、伴田真（太秦幼稚園五歳児）、森本奈桜子（北野幼稚園年長）、山村芹（二条城北小二年）、大谷知佳（正親小三年）、岡田ララ（同志社国際学院国際部五年）

【上京子供会会長賞】野中孝清（岩倉南小四年）、加藤雅史（西陣中央小六年）

【金賞】小島さくら（北野幼稚園年少）始め七十四人

【銀賞】加島匠（北野保育園年少）始め百十人

●審査員の講評●

出品数は昨年よりわずかに下回ったが、よい作品が多く、審査には苦労した。例年、よく見られる画一的な作品が減り、表現の仕方に進歩が見られた。水彩画なのに何度も塗り重ねて油絵のような重厚な仕上がりを出している作品が何点もあり、面白かった。今やスマホ全盛の時代だけに、子どもたちが自分の感性を遺憾なく発揮して画用紙に表現していくこの世界は、ますます大切になっていると思う。それだけに天満宮の奉納図画展のような作品を発表する場は貴重であり、これからもどんどん出品してほしい。

親子ふれあい写生大会表彰式

上京子ども会育成連絡協議会（倉辻彦一会長）主催の「第四十一回親子ふれあい写生大会」の入賞者表彰式が七月二十六日、社務所大広間で行われた。

今年の写生大会は、五月十九日、京都市動物園で親子ら八百十人が参加して行われ、優秀作品約二百点（うち京都府知事賞、北野天満宮賞などの特別賞は二十二点、特選は二十八点）を選び、七月十四日からこの日まで絵馬所に展示していた。

十二月一日 献茶祭

当宮献茶祭は、明治十一年に再興された。御神前で使用される茶葉は、毎年山城六郷（木幡・宇治・伏見桃山・小倉・八幡・京都・山城）の産地から、茶壺に詰められて奉献される。

古式に則り、御茶壺奉献奉告祭並びに口切式から献茶祭へと続く一連の神事は全国的にも非常に珍しく、毎年厳粛に執り行われている。

平成 25 年当時、御本殿でご奉仕される表千家千宗左宗匠

約四百年前の「北野大茶湯」の縁を今に伝える献茶祭を十二月一日、御本殿で斎行する。

当宮の献茶祭は、在洛の表千家・裏千家・武者小路千家・藪内家の四家元と堀内家・久田家二宗匠輪番によるご奉仕が慣例とされ、本年のご奉仕は表千家千宗左宗匠。当日は、社務所や明月舎を始め上七軒歌舞練場などにも茶席が設けられ、文道会館には「菓匠会」による飾り菓子の展示が行われ、全国各地より雅客や参拝者が訪れ、境内は終日賑わう。

十一月二十六日 御茶壺奉献奉告祭・口切式

十二月一日斎行の献茶祭に先立ち、祭典で使用される抹茶の原料である碾茶（てんちゃ）が、十一月二十六日、山城六郷の茶師によって産地ごとに茶壺に入れられ、姉さんかぶりの茶摘み娘の先導による御茶壺道中で艶やかに奉献される。

御本殿では御茶壺奉献奉告祭を斎行した後、献茶祭保存会役員が、ひとつひとつの茶壺の口を切り、茶葉の検知を行う「口切式」が、古式に則り執り行われる。

尚、奉納された碾茶（てんちゃ）は、石臼にて抹茶に挽かれ、献茶祭当日の濃茶・薄茶に使用される。

十一月十五日

大嘗祭當日祭

毎年秋、天皇陛下は、その年の新穀を、御祖先である天照大御神をはじめ、神々にお供えし感謝を捧げる「新嘗祭」を宮中で御斎行になるが、陛下が御即位後初めて行われる新嘗祭が「大嘗祭」であり、天皇御一代に御一度行われる、御位に即かれるうえで不可欠かつ宮中祭祀中最高の重儀とされている。

当宮でも、多数の氏子崇敬者が参列のもと、大祭式にて大嘗祭當日祭を厳粛に斎行する。

十月二十一日

一條天皇行幸始祭

平安時代中期の寛弘元年（一〇〇四）に、一條天皇が初めて当宮へ行幸された日に当たる十月二十一日、その佳日を寿ぎ御本殿において祭典を執り行う。

この祭典は、一條天皇の行幸以来、毎年永きに亘り斎行されてきたが、戦後の一時期途絶えていた。平成二十五年、一條天皇行幸より一〇一〇年の佳節を以て、当宮にとって最重要な祭儀であった「一條天皇行幸始祭」を、六十余年ぶりに再興したものである。

十月二十九日

余香祭・献詠歌披講式

『重陽後一日』の名詩を作られた菅公をしのび、十月二十九日、御本殿で余香祭を斎行する。祭典では、車座になった向陽会会員らが、全国から寄せられる献詠歌を、綾小路流という独特の節回しで披講する献詠歌披講式も執り行う。この祭典は、古くは重陽の節句に行われていたことから、御神前には菊の節句に相応しく黄と白の菊が飾られ、神職と向陽会会員一同は、冠に小菊を挿し、菊香漂う中祭典奉仕を行う。

十二月十三日

大福梅の授与

正月祝膳の縁起物として名高い「大福梅」の調製作業を十一月下旬に行い、事始めの十二月十三日から授与を始める。

大福梅は、元旦に「厄除開運」「招福息災」の願いを込め、白湯に入れて頂く古くからの縁起もの。例年、早朝より多くの参拝者が長蛇の列をなし、競って大福梅を授かる光景は、初春の訪れを予感させる風物詩となっている。

祭　事　暦（10月1日～12月31日）

【赤字表記：北野祭祭礼】

《10月》

10月1日～5日		瑞饋祭
1日	神幸祭	
	午前 9 時	出御祭　本社
	午後 1 時	行列出発
	午後 4 時	着御祭　御旅所
		八乙女「田舞」「鈴舞」奉納
2日	午前10時	献茶祭　御旅所　表千家宗匠奉仕
3日	午後 3 時	甲御供奉饌　御旅所
		西ノ京七保会による特殊神饌の奉饌
		参籠
4日	還幸祭	
	午前10時	出御祭　御旅所
	午後 1 時	行列出発
	午後 5 時	着御祭　本社
5日	午後 3 時半	后宴祭　本社
		八乙女「田舞」奉納
11日	午後 4 時	名月祭（豆名月）
15日	午前10時	月次祭
17日	午前10時	神宮祭
	午後 4 時	瑞饋祭終了奉告祭
20日	参　籠	
21日	午前10時	一條天皇行幸始祭（中祭式）
	午前11時	秋季摂末社奉饌
	参　籠	
22日	午前10時	即位礼當日祭（中祭式）
25日	午前 9 時	月次祭
	午後 4 時	夕神饌
29日	午後 2 時	余香祭

《11月》

1日	午前10時	月首祭
3日	午前10時	明治祭
	午後 1 時半	北野天満宮講社大祭・曲水の宴
12日	午後 3 時	大嘗祭大祓式
14日	参　籠	
15日	午前10時	月次祭
	午前10時	大嘗祭當日祭（大祭式）
25日	午前 9 時	月次祭
	午後 4 時	夕神饌
26日	午前11時	御茶壷奉献奉告祭並びに口切式
27日	午前10時	摂社和泉殿社例祭
30日	午前10時	赤柏祭

《12月》

1日	午前 9 時	月首祭
	午前10時半	献茶祭　御奉仕 表千家千宗左宗匠
13日	午前 8 時半	大福梅授与
15日	午前10時	月次祭
16日	参　籠	
17日	午前 9 時	御煤払い
25日	午前 9 時	月次祭
	午後 4 時	夕神饌
28日	午前 9 時	注連縄飾り
31日	参　籠	
	午後 4 時	大祓式
	午後 7 時	除夜祭
	午後 7 時半	火之御子社鑽火祭
	午後10時～午前3時	火縄授与

月釜献茶（11月1日～12月31日）

《11月》

1日	献茶祭保存会	分林　宗由（明月舎）
10日	梅交会	西澤　宗房（松向軒）
15日	献茶祭保存会	霊群　宗伴（明月舎）
	松向軒保存会	鮒子田宗恵（松向軒）
24日	紫芳会	藤井　路子（松向軒）

《12月》

1日	献茶祭	
8日	梅交会	田中　宗恵（松向軒）
15日	松向軒保存会	藤井　宗恵（松向軒）
22日	紫芳会	休　　会

十二月二十五日　終い天神

毎月二十五日は、菅公の御縁日。毎月多くの参拝者で境内は溢れかえるが、十二月二十五日は、今年の最後を締めくくる御縁日の「天神さん」であることから「終い天神」と呼ばれ遠近の市民に親しまれている。

境内には、迎春の縁起物を始め、骨董や食品など、店先いっぱいに商品を並べた多くの露天商が立ち並び、正月用品などを買い求める参拝者で終日にぎわう。

十二月三十一日　大祓式

大祓式は、半年に一度、六月三十日と大晦日に行われる恒例の祭典。

日々の生活の中で、知らず知らずのうちに犯したであろう自らの罪穢れを人形に託して祓い去り、心身ともに新たにし、清らかで明るい気持ちで、来る新年を迎えるための神事である。その起源は遠く神代にまで遡り、今なお、宮中をはじめ伊勢の神宮、全国の神社で行われており、当宮にも身を清めるため毎年多くの参列者が訪れる。

石川県立歴史博物館
加賀前田家と北野天満宮

特別展開幕

令和元年九月十四日から十一月四日まで、金沢市の石川県立歴史博物館で開催中の特別展「加賀前田家と北野天満宮」。加賀前田家の北野天満宮への篤い崇敬はよく知られるところであったが、両者の関係性に迫る特別展の開催は意外にも初となる。

展覧会開幕に先立つ開会式では、多くの関係者列席のもと、当宮で五十年の長きにわたり史料研究にご尽力いただいた藤井譲二館長（京都大学名誉教授）による本展の意義を解説する挨拶に続き、前田家ご当主前田利祐氏、当宮宮司による挨拶、そしてテープカットが行われた。

当宮に伝わる前田家ゆかりの御神宝、前田家に伝わる史資料、石川一円から集められたさまざまな作品らで構成される展示会場は、加賀前田家、そして加賀の人々の天神信仰を雄弁に物語る圧巻の空間となっている。

開会式（宮司挨拶）

前田家の天神信仰

前田家は、古くより菅原道真公の子孫との立場をとってこられた。正式に菅原姓を本姓とするのは三代前田利常公の時代からであるが、初代前田利家公の鎧（尾山神社蔵）には、天満宮の文字ならびに松と梅があしらわれており、利家公の天神様への信仰を伺い知ることができる。また利家公の妻まつ（芳春院）は、慶長七年（一六〇二）二月二十五日ごろに北野社に詣で「無尽興千句」を奉納したとの記録が残っており、さらに三代利常公は、元和四年（一六一八）七月に「紺紙金字法華経開結共」十巻を北野社に奉納し、その軸頭には螺鈿による剣梅鉢紋があしらわれている。梅鉢紋は天満宮の御神紋であり、剣梅鉢紋を家紋とするところに前田家の天神信仰が雄弁に語られている。

展覧会の見どころ①―能順（のうじゅん）

加賀前田家の天神信仰を語る上で忘れてはならないのが、北野社の宮仕であり、加賀に小松天満宮が創建される際その当職となった能順である。連歌師としても有名な能順は北野学堂の初代宗匠も務めており、関連する資料も此度の特別展で見ることができる。

展覧会の見どころ②―里帰りした太刀

八百年萬燈祭に際し五代綱紀公が太刀恒次を奉納して以来五十年ごとに歴代の前田家当主により当宮に奉納されてきた太刀四振り（うち三振りは重要文化財）と、千二十五年半萬燈祭に際し十六代利為公により奉納された太刀一振りがそろって展観されている。ポスタービジュアルにもなっている九百五十年萬燈祭に際し奉納された太刀助守の拵えは、加賀の職人らにより誂えられたことが分かっており、加賀金工の粋をみることができる。

刀剣展示の様子

加賀の天神信仰

剣梅鉢紋は現在も城下町の各所で見受けられ（会場である歴博のシャンデリアにもあしらわれている）、前田家の家紋として県民に親しまれているが、残念ながらその根底に前田家の天神信仰があったことはあまり知られていないのだという。この度の展覧会を通じ、石川の方々にも加賀前田家と北野天満宮の浅からぬ縁故を再認識いただける機会となれば幸いである。

展覧会場の様子

梅風会だより

令和元年度全国天満宮梅風会京都支部総会並びに一日研修

令和元年度全国天満宮梅風会京都支部（宇佐美伸二会長）の総会並びに一日研修が九月十二日、四十一人（うち当宮から五人）の参加の下、大阪府岸和田市で行われた。

岸和田天満宮を正式参拝した後、だんじりの工場などを見学。岸和田市内のホールで開いた総会で令和元年度全国総会の報告を受けた後、平成三十年度支部の活動報告などを了承した。この後、岸城神社自由参拝やだんじり会館、岸和田城見学（自由散策）をし、無事研修を終えた。

京都府神社庁主催

「北野天満宮探訪講座」開く

京都府神社庁（田中恆清庁長）主催の「北野天満宮探訪講座」が、市民約百十人の参加のもと七月二十二日開かれた。

神社の歴史や由緒を学びながら、神様のこと、社のことをよく知ってもらうと、毎年神社を変えて開催されており、当宮での開催は初めて。

参加者はまず昇殿参拝してお祓いを受け、巫女が『紅わらべ』を奉奏した後、林秀俊副庁長の玉串奉奠に合わせ、全員が祈りを捧げた。

宮司による歓迎の挨拶の後、文道会館に移動して開会式が行われ、林副庁長の挨拶に続き、神原禰宜が宮司の話を受けた形で「北野天満宮について」と題した講演を行い、スライドを使いながら「平安京の天門について」「新元号令和とのご縁」「星と天神さま」の三つの柱を中心にして丁寧に紹介した。

「京都子ども観光大使in北野天満宮」

新たに十二人を子ども観光大使に認定

「京都子ども観光大使in北野天満宮」の催しが八月七日と十日の両日にわたり当宮で開かれ、参加した十二人の小学生に認定書が授けられた。

子ども観光大使とは、地域の歴史や文化を学び、その魅力を全国、世界へと発信していこうという全国的な事業。すでに京都だけでも約百五十人、全国では一万人近い子ども観光大使が誕生している。

当宮で行われるのは今回で三回目。文道会館で百人一首や京都の竹やお茶の葉を使った遊びなどをしたほか、神職から当宮についての話を聞き、実際に境内に出ていろいろなことを学んだ。

その上で、「御本殿の周りに飾られている動物は？」「北野天満宮で一番古くからあるものは？」などといったクイズを作り、参拝者に問いかけて回った。中には、外国人観光客に果敢にアタックする光景も見られた。認定書を受けた子どもの一人は「北野天満宮や菅原道真公のことがよくわかった」と、充実した面持ちで感想を述べていた。

境内で高齢者の事故防止を誓う催し
「上京の高齢者～交通ルール守り抹茶（ますえ）」
事故防止祈願し、天神太鼓の奉納も

「上京区の高齢者を交通事故から守ろう」という秋の全国交通安全運動行事にちなむ催しが九月二十二日、当宮境内で開かれた。

上京警察署・上京区役所・上京交通安全協会主催による「上京の高齢者～交通ルールを守り抹茶（ますえ）」。一の鳥居前で行われたセレモニーには上京区内のお年寄りら約二百人が集まった。有吉上京署長や宮司らが『交通ルールを守って事故にあわないように』と挨拶。神若会北野天神太鼓会が事故防止を祈願して勇壮な太鼓を奉納した。

この後、参加者は境内をゆっくり散策し、中ノ森広場に駐車中の交通安全教育車に乗って体験する人もいた。最後は三々五々、文道会館に集まり鴨沂高校茶道部員のお点前でゆったりとした気持で一服を味わった。会館内は交通安全に関するビデオが流されており、それに見入る人もいた。

二輪女性ライダーを講師に招き
二輪の事故防止啓発の催し

ホンダ専属の人気二輪女性ライダーでモデルの京本諷さんをトークショーの講師に招き「二輪の交通事故防止in上京」（上京警察署・上京交通安全協会主催）が十月九日、文道会館前で催された。

京本さんは、二輪の魅力を語りながら二輪の交通事故が増えている実情に触れ、自らの体験に基づいた二輪に乗る時の注意事項を話し、交通事故防止を訴えた。この後、京本さんを囲んでの写真撮影会や参拝者への広報啓発活動が行われた。

仁和小学校創立一五〇周年記念
夏まつり・北野商店街夏まつり
地元の祭りで、北野天神太鼓会が和太鼓を披露

京都市上京区の仁和小学校が本年創立一五〇周年を迎えるにあたり、八月十日、仁和小学校にて、「仁和、夢をつなげる一五〇」と題した記念の夏まつりが開催された。

仁和学区在住の方々が多数参加する中、氏神神社である北野天満宮の神若会北野天神太鼓会がお祝いの和太鼓を演奏し、祭りを盛り上げた。仁和小学校では、七年ほど前より北野天神太鼓会の指導のもと「和太鼓クラブ」を結成し、日々和太鼓の練習に励んでおり、今回も仁和和太鼓クラブの生徒たちと共に太鼓の演奏を行った。グラウンドに鳴り響く和太鼓の生演奏に、会場に集まった生徒や教員、保護者や地域の方々は、熱心に耳を傾け、盛大な拍手を送っていた。

また七月二十一日には、恒例の北野商店街振興組合主催による夏まつりも開かれ、同会が迫力の演奏を披露した。

北野神輿会・北野祭保存会

京丹後の田んぼで抜穂祭と稲刈り行う 神若会北野天神太鼓会が和太鼓奉納

抜穂祭斎行

北野祭の再興に向けて様々な取り組みを続けている北野神輿会・北野祭保存会（井上経和会長）は九月八日、今春、当宮と御縁深き京丹後市大宮町に鎮座する大宮賣神社の御神田にて田植えをした田んぼで抜穂祭と稲刈りを行った。

参加したのは北野神輿会会員や家族のほか、京都産業大学の下出祐太郎ゼミ生、当宮神社青年会として活動する神若会北野天神太鼓会のメンバーら約七十人。

会員一同は見事に実った稲穂の傍らで、大宮賣神社の島谷泰夫宮司の御奉仕によって斎行された抜穂祭に参列し、井上会長が田んぼに入り同神社と北野天満宮の御神前にお供えする稲穂を刈り取り、引き続き行われた同神社御本殿での奉納奉告祭にも参列した。その後、神楽殿では北野天神太鼓会による和太鼓の奉納が行われ、地元大宮町の方々も聞きに訪れた。

天神太鼓会和太鼓奉納

大宮賣神社 島谷泰夫宮司、北野神輿会、北野天神太鼓会ら揃って記念撮影

稲刈り終了後、会員らは地元大宮賣神社宮祭保存会の皆さんとの交流会に臨み、懇親を深めた。

別名周枳神社と呼ばれる古社 北野との深い御神縁

大宮賣神社は、別名周枳神社と呼ばれる古社。当宮にも末社として周枳社が祀られており、御祭神は大宮賣神社に奉祀される天稲倉宇気持命と豊宇気能媛命の二柱。

かつて大嘗祭の主基地方に選定された同地と、当宮を流れる紙屋川で大嘗祭に先立つお祓い（荒見川祓）が行なわれていた北野の地とは深い御神縁があるほか、当宮末社周枳社はかつて北野が大嘗祭の斎場に定められ、悠紀殿・主基殿の二神殿を造営し神事が執り行われた由来により、その名を今に残すお社である。

当宮境内に鎮座する末社周枳社

瑞饋祭奉仕 御神前で健闘誓い、社務所で決起集会

また、会員らは、これに先立ち一日夕、御本殿に正式参拝し、十月一日から始まる瑞饋祭の奉仕に万全を期すことを誓った後、社務所大広間で決起集会を開き、奉仕への意識をひときわ高めた。

北野神輿会決起集会

井上会長挨拶

表参道に石燈籠奉納の紙業者の子孫
文道会館で第二回「紙と親しみ 紙とふれあい 紙を愛でる」催し

北野天満宮燈籠保存会

当宮の表参道に二基の石燈籠を奉納されている和洋紙の製造や加工・販売業者の子孫で組織する北野天満宮燈籠保存会（野崎隆男代表）が九月十四日、文道会館で第二回「紙と親しみ 紙とふれあい 紙を愛でる」催しを開いた。

当宮の史跡御土居内を流れている紙屋川は平安時代、官用の製紙所、紙屋院が置かれた場所。和紙発祥の地として古くから京都の紙関係業界の当宮への崇敬は篤く、明治三十五年の千年大萬燈祭に際し「京都紙商」の名で燈籠を奉納、それが破損した後、昭和二十六年、翌年の千五十年大萬燈祭を記念して二基の石燈籠を奉納されている。

この催しは、「先祖の思いを引き継ぎ、紙にもっと親しんでもらおう」との願いを込めて昨年秋についで二回目の開催。黒谷和紙協同組合（綾部市）の協力による紙漉き体験コーナー、朱印帳や紙箱組み立てコーナーを始め各種紙の販売コーナーなども設けられ賑わった。

開催に先立って会員は御本殿に正式参拝し、先祖が奉納した石燈籠の前での記念写真に納まった。

紙漉き実演

会場の様子

京都市自治記念式典で、神若会北野天神太鼓会が特別表彰
～京都・パリ友情盟約六十周年記念事業に貢献～

令和元年度の京都市自治記念式典が十月十五日、京都市左京区のロームシアター京都で行われ、昨年六月、パリ市との友情盟約六十周年を記念して京都市の市民代表団の一員として渡仏し、パリ市で天神太鼓を演奏した神若会北野天神太鼓会（竹内勤会長）が特別表彰された。

天神太鼓会は一昨年、結成十周年を迎えて初の海外演奏で十三人のメンバーが渡仏。パリ・京都両市の首脳による共同宣言文調印式が行われた夜の記念式典の合間、パリ市役所のホールでバチさばきも鮮やかに三曲を演奏、聴衆の拍手喝采を浴びた。また演奏を聴いていたパリ市の副市長に友好を祝し和太鼓を記念品として贈ったほか、聴衆のパリ市民にも友情盟約六十周年を記念して作った太鼓会の千社札等をプレゼントするなどして両市の友好に務めた。

こうした活動が「京都市・パリ市友情盟約六十周年記念事業に貢献し、両市の結びつきを一層強めた」として、この日の特別表彰となった。

表彰状

北野天満宮
神若会 北野天神太鼓会様

貴会は京都市とパリ市の姉妹都市交流に多大の尽力をされました。これは両市の結びつきを一層強めるとともに市民主体の国際交流による「世界文化自由都市」の実現に大きく寄与するものであります。よってその功績をたたえ京都市自治記念日に当たりここに表彰します

令和元年十月十五日

京都市長 門川大作

当宮は今年度も優秀賞に輝く
上京区自衛消防訓練大会

令和元年度上京区自衛消防訓練大会（上京自衛消防連絡協議会主催）が九月二十六日、区内の京都まなびの街生き方探究館グラウンドで開かれ、当宮は屋外消火栓の部で今年度も優秀賞に輝いた。

自衛消防隊の技術の向上を願って毎年開かれており、今年度は▽消火器の部▽2号消火栓の部▽屋内消火栓の部▽屋外消火栓の部の四部門に当宮を始め十九事業所から二十一のチームが参加し、技を競った。

当宮チームは中野忠雄権禰宜ら神職四人が出場。日ごろ神社内で訓練を重ねているだけに元気のよい号令に合わせ、素早くホースを繋ぎ合わせ、的に向かって的確に放水、見事な連携ぶりに盛んな拍手がおくられた。

正式参拝された皆様（敬称略）（七月～九月）

七月
- 二日（火）寶徳山稲荷 加藤権宮司
- 十七日（水）近畿運輸局
- 二十二日（月）京都府神社庁神社探訪講座

八月
- 二日（金）ありむら治子参議院議員
- 四日（日）京都府神社庁役員会
- 九日（金）（公社）全国社寺等屋根工事技術保存会
- 十日（土）百人一首大会
- 十日（土）白拍子研究所
- 十一日（日）将棋大会
- 十六日（金）江戸消防記念会 第4区

九月
- 四日（水）静岡県文化財保存協会
- 四日（水）真清田神社三八稲荷十八日講
- 五日（木）弘前大学 渡辺教授
- 八日（日）真清田神社 刀剣保存会
- 十四日（土）紙商灯籠保存会
- 二十六日（木）神宮研究所

挙式された皆様（七月～九月）

- 七月 十三日（土）三藤 雅道・理沙子 ご夫妻
- 九月 二十二日（日）實重 隆宏・詩織 ご夫妻
- 二十二日（日）松永 峻・美智子 ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん 思い出写真館

昭和三年春斎行の千二十五年半萬燈祭に際しての供奉牛を撮影した一枚である。境内のどこなのかわからないが、記録を見ると「仮牛舎に輪番を以って筋骨逞しく、毛並麗しき牽牛を飾り立て、毎日一頭ずつ取り替え奉仕して参拝人の目を驚かしたり」とある。

もう一枚、仮牛舎を正面から捉えた写真もあり、これも多くの参拝者が中にいる供奉牛を覗き込んでいる。

京都の街なかから田んぼが消え、農業の形態も一変してしまった現在では瑞饋祭の御羽車を曳く供奉牛ぐらいしか街なかで牛を見る機会などない。が、九十年前なら牛など珍しくなかったはずなのにこれだけ多くの人が見つめるのは、やはり飾り立てた萬燈供奉牛であり、特別の思いがあるのだろう。期間中、毎日変わる供奉牛が話題を呼んでいたのかもしれない。

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

七月「青」

懸命にバレエ舞ふ子ら三歳児
雅に楽しき青春の幕明け　京都市　小山　博子

青春の脆さ儚さ貧しさの
記憶を掬ふ夜店の金魚　京都市　若狭　静一

虹色の浴衣地揺れる高島の
空の青さと風のメロディー　大阪府　村島　麗門

大量の青梅漬けて炎天下
干し上ぐ巫女の苦労偲ばる　岐阜県　波多野千寿子

青蓮の咲く白川の行者橋
親しき友の取る手ぞ嬉しき　東京都　白石　雅彦

青きにのみ薄荷といはむチョコレート
我知るあをはなほ鋭きものぞ　東京都　岡田季実子

【評】本来、白と黒の間の色をさすため、緑や藍なども青という。中国古代の陰陽五行思想では四季のうち春が青にあてられるため、青春は春を指す。青少年の時期をいうのも陰陽五行の考え方による。

八月「岩」

刀根山や検査入院しんどさも
岩に染み込む蝉たちの声　大阪府　村島　麗門

磯岩に無数の命へばりつく
声なきものの夏の闘ひ　京都市　若狭　静一

岩戸鳴る朝霧消しつ波しぶき
涛波を起こす永遠の力　京都市　小山　博子

裏の川白鷺一羽岩に立ち
泳ぎ来る鮎じっと見つめる　岐阜県　波多野千寿子

徳の世の令和の君やさざれ石
岩なれかしと祈りけるかな　東京都　白石　雅彦

【評】病室から眺める岩と、染み入るように鳴く蝉の声。岩に無言でへばりつく磯の貝。岩が象徴する永遠の時との対比から、今という時が浮かび上がる。

九月「白露」

望の夜や一面光る白露に
芋の葉月をもて遊びゐる　岐阜県　波多野千寿子

泉涌く北野の宮の朝参り
木々の香に溢るる白露　京都市　小山　博子

白露が生まれる季節母君は
年月を経て洗礼を受く　大阪府　村島　麗門

長芋の蔓の伸びゆく律儀さに
棹足す白露の朝を愛しむ　京都市　若狭　静一

白露に映る残月冷ややかに
倖なき詩人暐を成すのみ　東京都　白石　雅彦

暁に消えし白露も秋寒に
葉先に宿る夜毎夜ごとに　長岡京市　智野利恵子

【評】暑さも和らぎはじめ、風が吹くようになる秋のはじまりを、二十四節気では「白露（はくろ）」という。近年は九月でもまだまだ暑いが、そのなかにも秋を感じる瞬間をつかみとることができる。そんな和歌の感性から学ぶことは多い。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

御旅所献詠「風」

若き日は風の色など気にとめず
生きていたなと思ふ秋の日　大阪府　村島　麗門

人も乗る伝統凧で空高く
大風に乗り大願叶へよ　京都市　小山　博子

強硬な措置に逆風隙間風
国不和なれどマッコリ交はす　京都市　若狭　静一

天文の英智をあつめ年ごとの
台風海へそらせぬものか　岐阜県　波多野千寿子

紅葉賀に舞ひたる童秋風楽
響かす波は青か難波か　東京都　白石　雅彦

【評】
年中ある自然現象だが、和歌の世界では秋を知るのを風によるという。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる」（藤原俊行）から日を追うごとに深まる秋の風情を、古典和歌からゆっくりと味わってみたい。風を感じる肌合い、音や匂い、色までもが表現される。

令和二年兼題

1月	望
2月	芽
3月	逢坂
4月	春月
5月	陸奥
6月	忍草
7月	天橋立
8月	夏雲
9月	須磨
御旅所	紙
10月	藤袴
余香祭	扇
11月	伏見
12月	街

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授
藤井 譲治

小堀仁兵衛と その奉納品の数々

前号で小堀仁兵衛奉納の「古画六曲小屏風」について取り上げた。その折、小堀甚兵衛が他にも多くの奉納をしていること、またその人物について取り上げることを約束した。

まず、小堀甚兵衛が奉納した品々を、奉納の年代を追ってあげよう。

年次が特定できる最初の奉納品は、明治一四年（一八八一）一月奉納の「渡宋御神影」一幅である。ついで明治一四年一〇月の「渡宋御神影」一幅、明治一六年五月七日の小野道風筆の経切一幅と伝道真真筆の経切一葉、明治二〇年一二月二一日の伝道真真筆の経切三葉、明治二五年一二月二一日の「古画六曲小屏風」一隻、明治二八年五月八日の狩野常信筆「渡宋御神影」三幅対（写真参照）、大正一五年（一九二六）七月の後西院天皇、狩野永徳筆の「御神號」二巻、この他、年次が明らかでないが、神像（厨子入彩色）一躯、光芳筆「御神影」一幅、「本彫本殿模型」一個をあげることができる。

さて、これら多くの奉納をした小堀甚兵衛とは、いかなる人であったのだろか。実は、小堀甚兵衛は、幕末から明治にかけての京都の有力両替商六人（御掛屋両替）のうちの一人であり、屋号を万屋といった。店は、文久三年（一八六三）に刊行された『花洛羽津根』によれば、下京六角高倉東にあった。

明治元年二月の明治天皇の御親征用途費として京阪の富豪に五万両が課されたときには、京都掛屋両替六人で一万両を負担した。同じ年一一月、太政官札の流通を助け、日常取引を円滑化させるために京都府が発行した銭札（府札）の札元の一人ともなった。翌明治二年の西京為替会社の設立にあたっては、二〇〇〇両を出資している。

また、明治一九年の調査によれば、京都における五万円以上の資産家の一人として名がみえる。

なお、最初の奉納の明治一四年から最後の奉納の大正一五年までの間に四五年あり、最初の奉納者と最後の奉納者は、親子であったかもしれない。

ちなみに小堀甚兵衛家の史料は、東京経済大学に所蔵され、幕末から明治期の金融史研究に利用されている。

狩野常信筆「渡宋御神影」三幅対

京都 平安京の天門

北野天満宮 ― 千百二十五年半萬燈祭に向けて ―

重要文化財 東西廻廊他

御屋根葺替ご奉賛のお願い

菅公千百年大萬燈祭記念事業として
美しく葺き替えられた国宝御本殿御屋根（平成14年）

北野天満宮では向う八年先に御祭神菅原道真公千百二十五年に相当する式年大祭「半萬燈祭」を斎行する運びとなっております。

この大祭に先立ちまして、御社殿を始め境内各所の大修繕を行い、御神宝調度品の新調また時代に即した参拝施設の新設などを加え、連綿と受け継がれてきた天神信仰の精華と国宝重要文化財を後世に継承して参ります。

就きましては、諸般何かとご負担の厳しい折とは存じますが、何卒趣旨ご理解ご賛同頂き、ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

◆重要祭典及び奉納行事等

半萬燈祭
千百二十五年大祭　令和九年
萬燈祭献燈
境内全ての吊燈籠・石燈籠　他
献茶祭　各家元奉仕
伝統文化芸能 神楽・舞楽・和太鼓・日本舞踊・能・狂言・献花
献香・横綱土俵入り奉納他

◆主たる営繕事業

重要文化財東西回廊他御屋根檜皮葺替

平成三十年の台風により廻廊の檜皮葺御屋根が捲れ上がった為、予定を繰り上げ、先ず東廻廊御屋根の修復工事を行った。今年度は西廻廊の御屋根の修復工事を行っている。

ご奉賛申込要領

工事費　三億六千万円
募財目標額　一億八千万円

◎お申込み方法

所定の申込用紙に必要事項をご記入頂きお申込み願います。

◎奉賛金納付方法

（一）郵便振替
（二）銀行振込
（三）現金書留にて郵送の場合
私製用紙に、奉賛金額（一括または分納の区別）・住所・氏名・電話番号等をご記入いただき、当宮宛ご送付下さい。
（四）ご持参の場合
社務所または文道会館にて受付させていただきます。

一括又は分納の何れかの方法でお納め願います。

専用振込用紙にてご納付ください。
募財期間　平成三十年四月より五年間

◎ご奉賛頂いた方への特典

一、ご奉賛額に応じ記念品を贈呈いたします。
一、壱拾万円以上ご奉賛の方には感謝状を贈呈いたします。
但し、記念品・感謝状の贈呈は当事業終了後となりますのでご了解ください。
一、特別祈祷として毎朝御神前にてご奉賛者の家内安全、学業成就、諸願成就を祈祷いたします。
一、芳名を御神前に供し報告いたします。

天満宮
［第二十四号］
令和元年十一月一日　編集・発行／北野天満宮　編集責任者／神原　孝至　〒六〇二―八三八六　京都市上京区馬喰町　電話〇七五―四六一―〇〇〇五（代表）　http://kitanotenmangu.or.jp/

紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、『**久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな**』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。

新年御祝　大福梅と縁起物の授与

◆頒布開始　十二月十三日（金）午前八時半より

◆初穂料
大福梅　七〇〇円
祝　箸　二〇〇円
屠　蘇　五〇〇円
守護縄　五〇〇円
縁起物詰合せ　三〇〇〇円
（但し、無くなり次第頒布終了）

元旦の祝膳に使われる「大福梅」と新年縁起物を今年も事始めの十二月十三日から授与。

梅の枝「おもいのまま」

元旦から授与――

◆頒布開始　令和二年元旦より
◆初穂料　一本一〇〇〇円
（但し、無くなり次第頒布終了）

千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の初天神で参拝者に授与していた経緯より、約六十年ぶりに授与を復活させた招福の梅の枝「おもいのまま」。「おもいのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で御神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

御縁日 境内ライトアップ

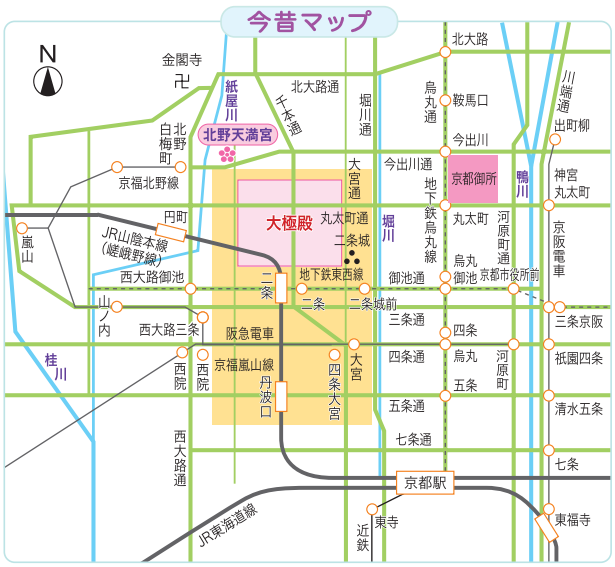
毎月25日は天神さんの御縁日。
夜21時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

右記ＱＲコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各ＳＮＳでもご案内しております。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

平安京（大内裏）
大極殿（室町時代迄の平安京）
京都御所（室町時代以降の平安京）